

令和6年度 久世こども園自己評価書・学校関係評価書

令和7年3月21日
真庭市立久世こども園

1. 久世こども園の教育保育目標

〈教育保育目標〉

心も体も健康でたくましく、生き活きと活動する園児を目指して

〈目指す子ども像〉

- 健康で明るい子ども
- 自分のことは自分でする子ども
- 自分の考えを発表できる子ども
- 友達と仲良く遊ぶ子ども
- 豊かな心情をもち考える子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- (1) 安心できる環境の中で人との関わりを通して、言葉で伝え合う力を育てる。
 - ・先生との信頼関係を基に、安心できる場で自己発揮し「話したい」「伝えたい」と思えるようにする。
 - ・一人一人の話をしっかりと受け止め、話したくなる気持ちや聞いてもらう満足感が味わえるようにする。
- (2) 心や体を動かして遊べる環境の工夫に努め、様々なことに主体的に関わりながら遊び込める力を育てる。
 - ・遊びの充実に向けて、園児の気持ちに寄り添い、様々な事柄に意欲的に関わって遊べるように援助する。
 - ・職員間の連携や情報共有を密にする。
- (3) 家庭との連携を深めながら生活習慣の定着を図り、心身ともに健康で安全に生活する態度を育てる。
 - ・園児や保護者の気持ちに寄り添いながら、丁寧な対応を心掛ける。
 - ・「ちゃれんじカード」の活用。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合 評価	評価委員評価 (学校評議員 評価)
教育保育課程 指導計画 栄養計画	教育保育課程に基づき、年齢や個々の発達段階を把握し、指導計画の立案を行った。また日々の振り返りから、計画の再構成を行い、園児の実態に合った計画を実施した。	3. 6	3
行事	幼児期に経験させたい事柄と園児の発達段階を捉えながら、行事の内容を検討し、実施してきた。行事ごとに園児の成長が感じられ、取り組む過程も大切にしてきた。	3. 8	4
組織・運営	責任をもって、担当業務に取り組むことができた。全職員が協力し合いながら運営に携わることができた。ただ、細かい打ち合わせや計画案の検討が必要である。	3. 5	3
学級経営	園児一人一人の気持ちに寄り添うことを大切に援助を心掛けてきた。全職員で連携を深め、共通理解して全園児を支えることができた。	3. 7	3

特別支援教育	園内で共通理解しながら、園全体で援助できるように進めてきた。また外部関係機関と連携しながら、援助の仕方が同じ方向で進められるよう取り組んできた。保護者の思いにも寄り添いながら、丁寧に進めることを心掛け、取り組んできた。	3. 7	3
安全管理 保健指導	園舎内外の安全点検を定期的に行い、安全管理に努めてきた。園児への指導についても避難訓練や交通安全指導等で自分の命を守ることを伝えながら、指導内容を検討し実施した。	3. 8	4
研修 (資質向上)	園内研については、研究実践を中心に研修を行うことができた。個々においても、専門書を読んだり、個人的に研修会に参加したりしながら、資質の向上に努めた。	3. 5	3
情報提供 保護者・地域との連携	行事や園児の様子をアプリを活用して、保護者への情報共有に努めてきた。地域との連携に関しては、園外保育が中心となり、地域の人との触れ合いに課題が残っている。	3. 3	3
小学校との接 続・連携	年間を通じて協議の場を設定し、計画的に行ってきた。また交流会については、1・5年生との交流会を実施することができた。今後、こども園で公開保育を計画し、園の教育保育の理解に向けて取り組んでいきたい。	3. 2	3
子育て支援	職員から進んで挨拶や声掛けを行い、保護者が相談しやすい雰囲気作りに努めてきた。また園児の様子について、育ちやトラブルも丁寧に説明し、園と保護者が同じ思いで園児に関われるよう努めた。	3. 8	4
食育の推進 (給食)	年間指導計画に基づき、年齢や季節等配慮しながら、食育活動を進めてきた。食材や箸の持ち方、季節の行事食など園児の興味関心を深めることができた。	3. 8	4
食事の提供	学校給食と連携し、安心安全な給食提供に努めてきた。食物アレルギー児については、職員間で連携しながら、誤食がないよう努めた。	3. 8	4

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

<p>○安心できる環境の中で、言葉で伝え合う力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の思いを肯定的に受け止めることで、園全体が安心できる環境になってきている。そのことで園児が伸び伸びとそして意欲的に遊んでいる姿がある。 ・研究テーマを基に園内研修しながら、援助の方法を探ってきた。自己発揮できるよう、信頼関係の構築に努め、年齢や個々に沿った具体的な表現方法を伝えることで、“伝えたい”“話したい”思いが育ってきた。 <p>○遊びの環境の工夫に努め、主体的に関わりながら遊び込める力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携、情報共有を深め、日々の計画を柔軟に設定してきたことは、園児の思いに寄り添い、園児の意欲につながっているのではないかと。 ・遊びの道筋やプロセスを大切に援助していることが、一つの遊びが充実していることにつながっている。もっと保護者にアピールしてもいいのではないかと。 <p>○家庭との連携を図り、健康で安全に生活する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育指導が丁寧にされている。保護者アンケートからも意見があった。生きていく上で大切なことだと思う。

5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

○こども園の教育保育について

教育保育課程や研究テーマを基に園児の意欲や主体性、表現する力が育まれるよう、職員間の共通理解を深めながら、引き続き取り組んでいきたい。肯定的に受け止めること、丁寧に受け止めること、寄り添うことを中心に園児の育ちを全職員で支えていきたい。

○小学校との連携について

園児の実態に合った計画を立て、小学校と協議しながら取り組んでいきたい。こども園からの発信も重要だと感じるため、公開保育等を行い、こども園の教育保育の理解に繋げていきたい。また互いにねらいをもち、よりよい交流ができるよう事前事後の協議をしながら進めていきたいと考える。

○地域との連携について

保護者の協力を得ながら、地域を知る機会や人と関わる機会をつくっていきたい。活動の中に無理なく取り入れ、継続して取り組んでいける交流を検討していきたい。

○情報発信について

ICTを活用し、より伝わりやすい情報の工夫をしていきたい。また情報発信する上で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を照らし合わせることで幼児教育の理解に繋がるような情報になればと考えている。

○職員研修や職員連携について

安心して預けられる園にしていくためには、職員の質の向上や職員研修の充実を図らなければならない。時間を有効活用しながら取り組んでいきたい。また、保護者との信頼関係の構築のためにも保護者の思いに寄り添い、丁寧な対応を今後も心掛けていきたい。また園児にとってモデルとなる先生であることを心に留め、適切な対応に努めていきたい。

学校評議員・園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である